

師走俳句・短歌集

みなみうわ俳句会

偶然を重ねて無月の浜に立つ
鳴門橋秋潮大河となり流る
満月や海の中にも家並あり
校庭のほの明るくて無月かな
小豆ほどのサーファー撒かれ秋怒涛
柿照るや一駆越すと街となる
振り向きざま猫の目欄々無月かな
新涼や礼儀正しく挨拶す
咲き初めし句い定まり無月の夜

御荘俳句会

もう一期バイクと共に十二月
大樟のどっしりとして神の留守
竹百幹音の不思議や冬一人
父と子の竹馬遊び遅足かな
碑の文字に張りつく散紅葉
灯ともるや人の恋しき秋の暮

檳榔子

三日月熟れて口遊ぶ童歌
秋の日のアンパンマンよありがとう

矢鋪 都

宮下 峰月

中川 千代子

濱 初榮

小島 泰子

長尾 則夫

若林 八重子

木村 智子

田口 ひさ子

尾崎 松恵

加洲 勢津子

山本 金子

小島 泰子

吉田 朝子

修行僧野菊を跨ぐ歩や乱る

ふるさとの歴史探訪菊日和

曼珠沙華疎水に影を跳らせて

ふれあい館真打落語に酔う夜長

今日一日心に描く秋桜

秋の夜の想い出広げ形見分け

実さくろや夕陽のいろを飾りつつ

若山 節子

山口 和子

吉田 モミエ

若林 八重子

濱野 康子

山口 董

三好 ミキエ

西海俳句会

虫しぐれ夜勤の夫待つ夢を見る

「デイサービス」

蝉しぐれ昼風呂こころ満たされて

運動会駆けて行けない明日退院

なんとなく遠い我子を恋ふる秋

沖からの秋風魚干し日和

吉田 久江

利根 早智江

吉田 朝子

吉田 笑代

吉田 弘定

新くさの葉短歌会(はこべ)

窓の外みどりしげりて蹲に二羽のセキレイ今日も水浴ぶ
守りてゐし幼も嫁ぐ年になりいよよその日も近づきて来し
豪雨にも崩れず残る坂の道明治の人も物運びしと聞く
独り居は物言はぬまま今日も過ぎ暮れ行く庭に小声で唄う
枯草に露置き初める畦道に時期を忘れず彼岸花咲く
あこがれに似たる思ひに購ひし白桃ひとつある夜の卓

倉田 美津枝

市川 コマエ

斉藤 トミ子

長田 ハル子

西崎 文恵

前田 充

はじめまして。赤ちゃん。

10月受付分(敬称略)

地区名	子の名	保護者
-----	-----	-----

ご冥福をお祈りします。

10月受付分(敬称略)

地区名	亡くなった方	享年
-----	--------	----

※上記情報は、広報誌掲載に対して、ご家族等に同意をいただいております。